

難加工への挑戦

株式会社
セキコーポレーション

【技術と技能】

日本の中・小製造業は、職人といわれる技能者によって支えられてきた。技能は個人が所有する技で、技術は企業が所有する技という考え方がある。技術力を評価される企業には、多くの技能者が存在している。技能は、長年の経験と勘により裏付けられており、一朝一夕には習得できない。習得を要する技能は、時代とともに増加する。これからの求められる人材は、既存技能を如何に早く習得し、さらに、時代を切り開く技能を習得しなければならない。

【現場教育】

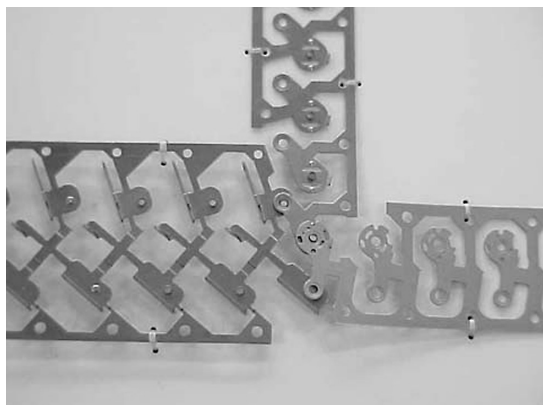
企業内における技能教育は、実務作業を通じて行われるOJTが主となる。OJTの成果は、教える側と教わる側の熱意と根気に左右される。両者の将来に対する目標と夢が明確になっていなければ、熱意は高まらない。一般的に教える側の熱意は高くなく、積極的に教えることは少ない。教わる側が消極的であれば、技能の継承は難しい。また、熱意という不安定さを排除するために、教育のシステム化が必要となるが、それには技能という勘の部分のデジタル化を、IT等を利用して構築しなければならない。

【基礎知識】

製造機械でコンピュータを利用したNC機が主流となり、それを操作することが優秀者と思われるが、実際には、NC機の操作に能力は必要なく誰でも扱える機械である。問題は、工具条件や切削条件等の技能としての知識が必要になり、それが不足であれば、効率的なプログラムは組めない。設計においても、工業高校や工学系の大学では、三次元CADを教えるようになり、その知識はあるものの基本的な製図通則を知らない者も多く、三角法を知らなければ製作図は作れない。基本的な事柄に派手さはないが、画期的な合理化や斬新的なアイデアを実現するためには、基礎知識は不可欠である。つまり、基礎がなければ応用が難しいということになる。企業では、一般的に専門教育には熱心ながら基礎教育に対しては熱心ではなく余裕もないので、基礎が確立していないために脱落する者も少なくない。

【ニーズ】

技術は芸術と異なり、ニーズにマッチしていただなければならない。技術としてのニーズは、時代とともに変化する。陳腐化したニーズの技術力に努力しても無駄となるので、常にニーズを把握していなければならない。ニーズ



写1 特殊工法事例



写2 今年創業を開始する上海工場のイメージ図

を知るのには、ITを利用した情報収集力が製造業にとって重要となる。また、ニーズは探すばかりではなく創造することもある。ニーズを創造するにはリスクは大きいがリターンも大きい。

[Q・D・C]

製造業にとって重要な要素として、QDCがある。

Q=Quality（品質）

D=Time for Delivery（納期）

C=Cost（コスト）

品質が良くても納期が守られずコストが高

ければNGであり、QDCがすべて満足となってOKとなる。最近では、品質や納期は当然のこととして、コストに対する要求が強くなってきた。さらに、QDCにプラスしてT(Technology)としての技術的付加価値が求められている。

[当社の特徴]

音響映像機器等の精密部品を、金型の設計製作から量産プレス加工、組立までの一貫生産を行っている。一貫生産による技術ロスの低減で、より高度な技術的提案が可能となる。

本社は八王子に、工場は群馬・山梨・岐阜にあって生産活動を行っている。海外では、シンガポールとマレーシアに2工場。今年の7月には、中国の上海工場が稼働する。今後は、量産加工は海外で、国内は、難易度の高い技術を要する生産活動が主となるため、ますます高度な技術力が必要となる。技術開

発として、既存の常識に縛られることなく、柔軟な発想での「難加工への挑戦」としてユニークな工法の開発に心掛けている。写真は、弊社が開発した特殊工法の一例で、1型に材料を3本供給し、4点の部品が加工されると同時に組立まで完成される。従来は、4型にて別々にプレス加工し別の機械で組立てていたもので、半値以下のコストダウンを実現した。弊社は、産学公連携事業を積極的に行い、異業種交流会にも参加して、情報収集や自社で手に負えない技術をカバーしている。

〒192-0046 東京都八王子市明神町 2-9-22
<http://www.seki-corp.co.jp>